

もう二度とないこと

六年 石川敬幸

第十一回「全国棚田サミット」で、ぼくたちが発表することになりました。その練習は、夏休みの前から続けていました。

初めての練習の時は、まだセリフの紙を手ばなせない状態でした。しかし、練習を重ねていくにつれて、一つまた一つ、セリフを覚えていくことができました。

もう一つ、千枚田へ通い調べていくものがあります。

それは、千枚田にかんする自由研究です。ぼくのテーマは「千枚田の危険な生物」です。

聞きこみをしました。へ

び、ハチ、イノシシ……。たくさん生物にあつたと教えてくれました。

帰ると、早速メモしておきました。その他にも、ぼくの知っている動物や、危険でこの地いきにもいて、田が生息場所というわくにあてはまる生物も図かんで調べてメモし、どこが危険なのかもつけ加えました。

いつもより、短く感じた夏休みが終わり、九月二日は、いよいよ現地発表です。それぞれがまとめたことを、発表します。

ぼくは、「千枚田の危険な生物」です。千枚田に生息する危険な生物を、図かにしたものです。

里菜ちゃん、有稀ちゃんの二人は「草花図かん」で

す。千枚田にさく草花を写真にとり、それをのりではり本にします。里菜ちゃんの図かんは、かなり厚くおどろきました。

聖子ちゃんは、「千枚田の風景写真集」です。数枚選んではってあつたのうすいですが、六十人以上に聞いてまとめたものです。その努力はすごいなと思いました。



拓磨君は「千枚田のつりぼり」です。これは来た人に人気がありました。萌生ちゃんは、うめジュースを配っていました。大人の宣伝の効果か、すぐになくな

ってしまいました。

中学生は、小学校の時の発表、奈央ちゃんは道具の説明と仕事をする人数の減り具合、加奈ちゃんは水温のことを発表しました。

どれもしつかりまとめてありました。

翌日、九月三日は事例発表の日です。バスの中では、きんちようと楽しさのまざった変な感かの中、ゆられていました。役場に着くと最終練習です。少しせまかったけど、練習には充分のスペースでした。弁当を食べ、後かたづけをすませると、中学校の体育館に向けて出発しました。

位置に着くと、音楽がなり始めました。今までの練習を思い出しながら発表していききました。そして、最後の部分です。みんなと息を合わせます。里菜ちゃんが小声で、「せーの」と言

うとみんなでいっしょに「よい景色 つやのある米 やさしさあふれる千枚田」と、大声で、なおかついい声で言います。音楽が流れ、まくが閉じ、発表は終わりました。

ぼくはこの年でサミットに出られたことを、ほこりに思います。ぼくは、サミットを通していろいろなことがわかったり、気づいたりしました。特に、千枚田の大切さに気づかせてくれたと思います。千枚田はたくさん生物たちがいます、つまり、千枚田を大切にするのは生物を大切にすることに繋がります。

だからこれからも、千枚田を大切に、生物を大切にしたいです。

そして、サミットで発表するとう、二度とないことを記おくにとっておきたいです。

地球のだから、見つけた

愛・地球博 長久手愛知県館 あいち・おまつり広場において万博最終前日の九月二四日に新城設楽地域の日が行われ、「地球のだから、見つけた」をテーマに大林宣彦映画監督がプロデューサーとして奥三河の魅力を発信しました。

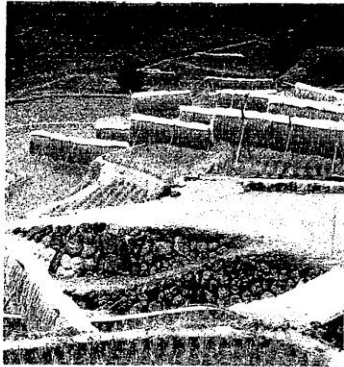


水の妖精が見守る四谷の千枚田で稲刈り作業の映像をバックに監督と小山舜二が「自然の尊さや地球のだから」について対談をしました。

あいちの散歩道

中日新聞八月二七日、「あいちの散歩道」に四谷の千枚田境界が紹介されました。

現在でも掲載された新聞片手に大勢のグループや家族連れが訪れ、四谷の千枚田や自然を満喫しています。訪れたかた達は「私たちが見させて戴く棚田は素晴らしいが、これを守っているお百姓さんは大変ですねえ」と嬉しいような悲しいようなお言葉をよく戴きます。



それにしても、メディアの力は大きいものだと痛感しました。

新米を学校給食に…

愛・地球博 市民パビリオン「地球の授業」で昔の脱穀の実演をしました。(八月十五日〜二十一日、既報) 万博会場に稲ハザを展示した稲を持ち帰り、脱穀、初すり、精米したものを連谷小学校の学校給食で児童たちに「新米」として食べてもらうよう届けました。

これは、イベントの主催者「棚田ネットワーク」からの贈り物です。

育てた稲、児童収穫

九月二九日、連谷小学校の全校児童十四名が千枚田で鎌を手に育てた稲(鈴原糯)を刈りました。



昔の脱穀 「ふれあい広場」に掲載されています。

青年塾研修会

政・経済界に名を馳せた政経塾(松下幸之助塾長)の副塾長であった上甲 晃氏が塾長として立ち上げた「青年塾」の第九期生・東海クラスの研修会が鳳来寺の東海市山の家で十一月十一日〜十三日に開かれます。研修生は各企業の将来を嘱望され、派遣された若い世代の人達です。

十二日には九時から正午まで「千枚田の自然と歴史」を散策、一時から三時半まで山の家で「私の千枚田への思いと自然・環境の変遷」と題して小山舜二が講演をします。

次回サミット開催地宮崎県「坂元の棚田」古澤町子さんからの近況

千枚田の見学会では地元心のこもった対応に大変感謝しています。反省会で「私たちは出来るであろうか」と心配しています。また、サミット全体の内容が充実していました。「はねこみ」、「花火」に感激しました。本当に素晴らしいサミットでした。

私たちが帰ると、台風で道路が決壊して、現在でも迂回している状況です。サミットまでに復旧するであろうか、行政にもお願いして頑張っています。

投句函について

多くの方から俳句や短歌が投句されました。千枚田入り口の掲示板で紹介します。

平成十七年十月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
行 文 責 小山舜二